

図画工作科学習指導案

指導者 森 香苗

1. 日時・場所 令和3年10月 場所 図工室
2. 学年 第3学年
3. 「学習の方向性」から題材へ

造形的な見方・考え方を働かせ、資質・能力を育む「学習の方向性」

- 感じたことや想像したこと、見たことから表したいことを見付け、工夫して表す。
 - 活動したことや表現したものよさや面白さなどを感じ取ったり考えたりし、見方や感じ方を広げる。
- 【A表現(1)イ(2)イ】 【B鑑賞(1)ア】 【共通事項】

子どもたちの姿

- ・ 図画工作の学習に意欲的に取り組む児童が多く、授業以外でも絵をかいたり、造形的な活動を楽しんだりする姿がよく見られる。
- ・ 自分で発想を広げたり組み合わせるとどうなるかを考えたりすることが苦手な児童が多く、工夫があまり見られず、表したいもののイメージが湧いていてもそれを形にすることが難しい。思い通りにいかず、途中であきらめてしまう児童も少なくない。
- ・ 3年生「カラフルフレンド」(絵や立体)では、ビニール袋の中に入れる材料を、色に着目して集めた。色の感じや組み合わせから、表したいことを見付ける経験をしている。

教師の願い

- ・ 集めた身近な材料に触れて、どんな形が写るかを想像したり、実際に写したもとのから想像を広げたりする中で、材料の組み合わせを考えながら表したいものを思いついてほしい。
- ・ 版は、何度も同じ形を写せるというよさがあることを知り、繰り返し刷るのに適した版の作り方や木版画にもつながる版の刷り方を身につけてほしい。
- ・ 友達のアイデアを聞いて、自分の表現に取り入れたり、友達が表したいものに使えるような材料を伝えたりすることを通して、見方や感じ方を広げてほしい。

題材名

いろいろなうつつZOO!
～でこぼこしたざい料を組み合わせはんをつくり、たくさんうつつて動物園にしよう～

題材目標

- 版の材料や形や色、写し方などを工夫して表す活動を通して、形や色、それらの組み合わせによる感じが分かり、版画の用具を適切に扱うとともに、はさみや接着剤などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫してつくるようにする。
- 身近な材料の形や刷ったときの色を基に、自分のイメージを持ち、材料を組み合わせる版をつくりながら、感じたことや想像したことから表したいことを見付け、形や色、材料を生かしながら、どのように表すかについて考えるようにするとともに、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げるようにする。
- 進んで表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくり出す喜びを味わうようにするとともに、形や色などに関わり、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養うようにする。

題材について

本題材は、様々な身近な材を使って版に表す活動を通して、材料の組み合わせを試して版を作り、写し方を工夫して表すことを楽しむ活動を中心としている。子どもたちにとって身近な材料は、普段は何気なく見ている物ばかりであるが、「でこぼこした材料」として見ることで、写したり組み合わせたりするとどうなるかについて、想像を広げていくことができる。また、いろいろな色で刷ったり、向きを変えて刷ったりするなど、版の特徴を生かすことで、さらに工夫して表現することができる題材である。

材料の写り方を試す活動においては、より多くの材料についてどのように写るかを想像したり、写したもとのから表したいものを考えたりすることができるようにする。また、版をつくり、刷ったもとのからさらにイメージを広げてつくり変える活動では、友達との対話的な学習の中で自分だけでは思いつかなかった視点に気づくことができるようにする。これらの活動を通して、試行錯誤を繰り返しながら自分の思いを形にしようとする力を育むことができると考えている。

○「学習の方向性」を基に育成を目指す資質・能力と本題材との関連

本題材は、でこぼこした材料から表したいことを見つけること、表したい動物について自分のイメージをもって工夫して表すことが学習の核となる。材料を写した形に注目し、感じたことや想像したことから、表したい動物を見つけることができるように、いろいろな材料を実際に写して、どんな動物が表せるかという思考につなげられるようなワークシートを工夫する。また、「やさしい感じの〇〇になるように△△で表そう」や「迫力のある〇〇を表したいから△△を使おう」などの、自分のイメージを形にすることができるように、版をつくり変える活動の時間を十分に取ったり、アドバイスし合う時間を設けたりして、材料を選択する場面を充実させる。アドバイスし合う活動を通して、友達の実現に触れたり意見を取り入れたりして、見方や感じ方を広げることにもつなげるようにする。

4. テーマに迫るために

| | |
|-------|---|
| 研究主題 | 感性豊かに生きる力をはぐくむ図画工作科学習の創造 ～感じる つくる 考える 子どもの姿を求めて～ |
| 部会テーマ | 工夫して つくることを楽しむ子どもの姿を目指して |

○出あいの工夫

教師がつくった版を刷ったものを提示し、どんな材料を写しているかをクイズ形式で考えさせることで、今回の活動の中心である「材料を写すとどんな絵ができるか」に興味をもつきっかけにする。版をつくって写す過程を掲示することで、材料を組み合わせることでどんどん表したいものに近づいていく面白さを共有し、つくりたいという思いをもてるようにする。また、版のつくり方や刷り方の手順を知って見通しをもち、つくる活動に自信をもって取り組むことができるようにする。

○場の設定の工夫

繰り返しつくりることができるように、版をつくる場・インクをつけて刷る場を明確にし、つくり、つくり変える活動ができるようにする。たくさんの材料に触れることができるように、集めてきた材料を共有する「でこぼこざいりょう箱」を用意し、自分では集められなかった様々な材料と出会うことができるようにする。

○共感的支援の工夫

「〇〇みたい」や「〇〇の感じ」など材料を写したときの特徴を捉えている児童の言葉を価値づける。また、学級の実態から、1つの材料にこだわり他の材料に触れたりそれらを組み合わせたりすることに消極的な児童がいることが予想される。児童が見つけた材料から想像を広げようとしていることを認めて寄り添いつつ、いろいろな材料に目を向けられるように声かけをして、つくり変える活動にも意欲的に取り組むことができるようにする。

○小中一貫の視点

凹凸のある材料を組み合わせる版をつくるという活動を通して、凹凸の具合による写り方の感じを捉えたり、写すとどうなるか想像したりする経験させ、今後の木版画につながるようにする。また、材料の写り方から自分なりのイメージを広げることで、今後の鑑賞の活動でも、どんなところからどんなイメージを受けたかを、表現する場面に生かせるように指導していく。

5. 題材の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 版をつくったり刷ったりするときの感覚や行為を通して、材料の形や刷ったときの色、それらの組み合わせによる感じに気付いている。 身近な材料を組み合わせるなど手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて工夫して版をつくったり、刷ったりしている。 | <ul style="list-style-type: none"> 材料の形を基に、自分のイメージをもち、材料を組み合わせながら、感じたことや想像したことから表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。 自分たちの作品の造形的なよさや面白さについて感じ取ったり考えたりして、自分の見方・感じ方を広げている。 | <p>つくりだす喜びを味わい、進んで版を作ったり刷ったりする活動や鑑賞する活動に取り組もうとしている。</p> |

6. 指導と評価の計画 8時間

ア 集めた材料を生かして表したい動物のイメージを広げる。(1時間)

イ 版のつくり方や刷り方を知り、材料を組み合わせる版をつくったり、刷ったりする。(3時間)

ウ 何度も刷ったりつくり変えたりする。(2時間)

エ 版を生かして絵をかく。(1時間)

オ 完成した作品を並べて、鑑賞する。(1時間)

| | 子どもの学習活動 | 評価規準 【評価方法】 | 教師の指導 | 知・技 | 思・判・表 | 主体的 |
|-----------------------|---|--|---|-----|-------|-----|
| 1 | <p>ア 集めた材料を写して、どんな生き物が表せるか考えよう。</p> <p>○クイズや掲示物で版を作る過程を確かめ、活動の見直しをもつ。 ・ネットと毛糸を組み合わせると、あんな風に写るんだ。 ・たくさん材料を使うといろいろな模様になるね。</p> <p>○材料を持ち寄って形や触り心地を確かめ、実際に写したのから表したい生き物を考える。 ・プチプチは、たこやいかのあしに使いそう。 ・毛糸でライオンのたてがみができそうだよ。</p> <p>○自分や友達のアイデアを生かして、つくる生き物を考える。</p> | <p>知・技 材料を写すときの感覚や行為を通して、形や色、それらの組み合わせによる感じに気付いている。 【つぶやき】 思・判・表 写った材料の形を基に、自分のイメージを持ち、材料を組み合わせながら、感じたことや想像したことから表したいことを見付けている。 【活動の様子、ワークシート】</p> | <p>○教師がつくった版と刷ったものを提示し、版をつくるとたくさん写すことができることに気付かせ、みんなの作品を集めて動物園をつくることを伝える。</p> <p>○スポンジローラーの使い方やインクののばし方について、実際にやって見せる。</p> <p>○材料を試し刷りする時間を十分に取り、どのように写るのかのイメージをもてるようにする。</p> <p>○材料に触れたり、試し刷りをしたりしながら、どんな生き物が表せるかを考えられるように投げかける。</p> | ● | ● | ● |
| 2 ・ 3 ・ 4 | <p>イ 土台になる型に、材料をはって版をつくり、写してみよう。</p> <p>○厚紙で生き物の型を作る。 ・足や手は別の厚紙を貼ると版になるのか。 ・体と耳は、どちらを上を貼ればいいだろう。</p> <p>○材料を組み合わせ、版をつくる。 ・魚のうろこにいろいろな形のボタンを使いたいな。 ・おしゃれならくだにしたいから、3つのこぶに違う材料をつけてみよう。</p> <p>○版画を刷る手順を確認して、画用紙に写す。 ・はじめは赤のインクで刷ってみよう。 ・にぎやかな感じにしたいから、明るい色をたくさん使おう。</p> | <p>知・技 身近な材料を組み合わせるなど手や体全体を十分に働かせ、表したい動物のイメージに合わせて工夫して版を作ったり、刷ったりしている。 【観察・写真記録】</p> | <p>○生き物の型として、体の中心になる部分といろいろなパーツに分けてつくり、より立体感が出る組み合わせ方を考えさせる。</p> <p>○前時で思いついていた材料以外にも、組み合わせ方を見つけた児童を取り上げ、材料を紹介する。</p> <p>○活動の途中で、友達の作品を見ることができるような場の設定を工夫する。また、つくりつつあるものを見合う時間を取り、使っている材料やその組み合わせに注目して、よさを認め合えるようにする。</p> <p>○版を刷る場やバレンの使い方を確認し、版ができた児童から刷れるようする。</p> | ● | ● | ● |

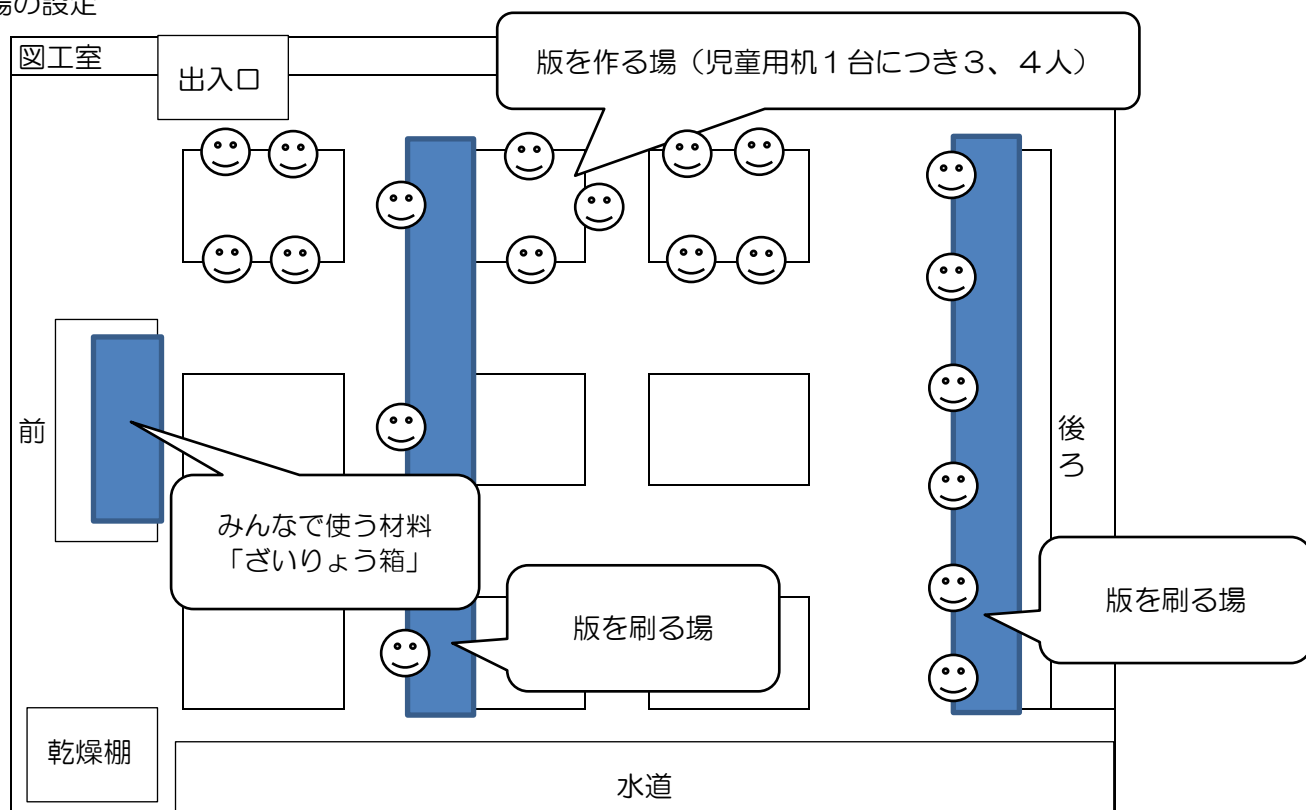
| | | | | |
|----------------------|--|--|---|--|
| <p>5 ・ 6</p> | <p>ウ 材料を変えたり体のパーツの向きを変えたりして、自分のイメージにぴったりの生き物に作り変えよう。</p> <p>○前回刷った版に満足できなかった児童へのアドバイスを出し合い、より自分のイメージした生き物の感じに近づくように版を作り変える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさん材料を使ったのに、ボタンしかわからない。どうしたらいいかな。 ・毛糸を使ったけれど、うまく写らなかった。写っている人もいるのになぜだろう。 <p>○刷って作り変える活動を繰り返し、満足のできる版をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回目は顔が全然写らなかったけれど、材料を変えてみたら全部写った。 ・スポンジに貼り変えたら海の中でぶくぶくした感じになったからこっちの方がいいかな。 ・友達が紙皿はよく写ると教えてくれたから試してみた。 | <p>思・判・表 材料の形を基に、自分のイメージをもち、材料を組み合わせながら、感じたことや想像したことから表したいことを見つけ、形や色、材料などを生かしながら、どのように版を作り変えるとよいかについて考えている。 【対話の様子、つくりつつあるもの】</p> <p>主体的 進んで版に表して表現する活動に取り組もうとしている。 【つぶやき・活動の様子】</p> | <p>○版画をつくる過程を掲示し、いつでも確認できるようにする。</p> <p>○スポンジローラーの使い方やインクののばし方について、振り返ることができるようにする。</p> <p>○友達のアドバイスを生かし、材料を変えて満足できる版ができている児童の工夫について、共感的に受け止める声かけを行う。</p> <p>○いろいろな色を使えることや、天地が逆になるように写すこともできることを確認して、自分なりの工夫ができるようにする。</p> | |
| <p>7</p> | <p>エ 自分の生き物にくらししてほしい場所をかこう。</p> <p>○版を写した画用紙を貼った余白に暮してほしい場所の絵をかき足す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンダの周りにはユーカリの葉をかこうかな。 ・自然がいっぱいの動物園にしたいから、前の学習の緑の作り方を思い出して使ったよ。 ・海の底に住んでいるから濃い色を組み合わせたよ。 | <p>思・判・表 自分の版を刷ったものから感じたことや想像したことを基に、形や色を生かしながら、どのように表すかについて考えている。 【つぶやき、作品カード】</p> | <p>○自分の生き物に合う背景を「どんな場所に暮しているのか」と問いかけ考えさせる。</p> <p>○なぜその場所なのかの理由を聞き取り、本人のイメージを言語化することで、さらにかきたいものを思い出すことができるようにする。</p> | |
| <p>8</p> | <p>オ 完成した作品を並べて、動物園をつくろう。</p> <p>○動物園になるように作品を並べて、作品を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水にすむ生き物と陸にすむ生き物で分けて並べたい。 ・小動物はこっち、大きな動物はこっち。 <p>○材料当てクイズをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このイルカのひれは何をうつたでしょう。 ・段ボールを写したと思ったけど、梨を包んでいたネットだった。 | <p>思・判・表 自分たちの作品の造形的なよさや面白さについて感じ取ったり考えたりして、自分の見方・感じ方を広げている。 【対話の様子、鑑賞カード】</p> <p>主体的 進んで自分や友達の作品を鑑賞する活動に取り組もうとしている。 【観察・写真記録】</p> | <p>○自分の作品と友達の作品の材料の違いなどに気付いている児童の意見を取り上げ、写したものをよく見ていることを価値づける。</p> <p>○より一つひとつの作品をじっくり見るできるように、材料を当てるクイズを子どもたちが出せるようにする。</p> | |

7. 準備

児童：片面段ボール・ひも・ネット・毛糸・布などでこぼこした身近材料、ボンド、絵の具

教師：スポンジローラー（9本）、インク（共同絵の具8色）、練り板（給食トレー9）、バレン（9こ）、新聞紙、厚紙、A4画用紙、四つ切り画用紙、ボンド、両面テープ、タンポ

8. 場の設定



9. 研究内容についてのふりかえり

1 「学習の方向性」を基に育成を目指す資質・能力を明確にしたカリキュラム・マネジメント

<育成を目指す資質・能力について>

知識・技能

材料との出会いの場面では、たくさん写してみる経験をさせたことで、どんな材料が写りやすいかを考えて版をつくっている児童が見られた。試し刷りしたときは、どんな動物が表せそうかのイメージをもちにくい児童が多かったが、実際に版をつくり始めると、どんな材料でつくるとよいかを自分なりのイメージをもってつくることができていた。版そのものを作品として作り始める児童もいたため、「写したらどうなるか」をもっと考えさせる声かけが必要だったと感じた。

また、今回はインクに共同絵の具を使用したのが、思っていた以上に乾くのが早く、本人の技能にかかわらず、うまく刷れない場合が出てしまった。教材研究でいろいろなパターンを試す必要性を感じた。インクののべし方は「行きは電車、帰りは飛行機」の合言葉で確認し、用具の使い方は定着していた。

何度もする中で、凹凸が大きすぎるとうまく写らないことに気付いている児童もあり、材料を工夫してはることの面白さに気付いていた。

思考・判断・表現

材料の試し刷りをするワークシートを使ったことで、多くの材料に目を向けることができた。試しに写したのからどんな動物が思い浮かぶかを考えたり、友達に意見を聞いたりして表したい生き物を決めることができた。一方で、「うさぎはふわふわ」とか「しまうまはしましま」とか、もともと子どもたちの中に備わっている知識が先行してしまい、材料を写した感じからイメージを広げるのが難しかった。イメージのどちら方を言語化した例を用意するなど、イメージをもつとはどのようなことかが明確になると、想像を広げやすかったかもしれない。

刷ったものを見て、満足できない児童が多くいたので、どうしたらよいかを尋ねたことで、一部の子どもから「はがしていい?」「上からはっていい?」という声が上がった。うまく刷れなかった児童に「困ったこと」として改善案を求めさせることで、友達の意見を取り入れて使う材料を変えたり、貼り方を工夫したりすることができた。全体でも共有する時間を取ると、子どもたちのほとんどは一度つくったものを作り変えるということを想定しておらず、材料をはがしたり上から新しいものを貼ったりしてもよいことに驚いていた。そこで、よりよくする方法を理解し、もっとうまく写るようにしたいという気持ちを高めることができた。

主体的に学習に取り組む態度

低学年の題材で「形を写す」という経験はしてきたが、「版画」を経験するのは今回が初めてだった。そのため、活動の見通しをもち、迷わずに取り組むことができるようにすることで、活動を通して資質・能力を発揮することができた。

満足できる版につくり変えていくことが多くの子どもたちの中で想定外だったこともあり、自然とつくり続ける活動を楽しむことができていた。そこに対して、選んだ材料や色についても目を向けられている児童を価値づけて、周りの児童も意識することができるように働きかけた。

〈3つの工夫と小中一貫の視点について〉

出あいの工夫

材料当てクイズに意欲的に取り組み、「写るとどうなるのか」を考えたり意外なものに驚いたりする姿が見られた。版画に興味をもち、「つくってみたい」という思いは高められた一方で、本来ねらっていた、「材料の写った形を基に自分のイメージをもち、表したいことを見つける」ことができなかった児童が多かったように感じた。

場の設定の工夫

一人ひとりの作業の場をできる限り確保し、版の周りに材料や刷った画用紙、用具を置けるようにしたことで、つくり続ける活動ができた。中央と後方に刷る場を設けることで、自分が使いたい色に向かうまでの間に、版をつくっている友達を見て「すごい!材料を貼るの上手!」「これ(材料)って何?」など自然とつくりつつあるものを見合ったり、興味をもって対話したりしている姿が見られた。

共感的支援の工夫

材料を試し刷りする活動では、材料を写したときの特徴を捉えている児童が少なかったため、版をつくり変える活動の際に「どうしたら写るかな?」「どうすると〇〇に見えるかな?」という声かけを行うと、自分で改善案を考えている児童もいたため、つくり変えるよさに気付いていることを価値づけた。材料を複数組み合わせる版をつくっている児童には、より多くの材料を使う工夫を認めつつ、自分が表したいものに近づいているかを確認した。「この材料(色)にしたらどんな〇〇になった?」と問いかけることで、自分が選んだ材料や版の貼り合わせ方に意味を見出すことができた児童もいた。

小中一貫の視点

今回の題材では、版の色を変えたり材料を組み合わせたりして表現した。中学校では、カリ・マネ要領(p15)にあるように、「制作の順序を考えながら見通しをもって表すこと」が1学年の知識・技能に含まれている。これは、今回の材料をはったり組み合わせ方を考えたりする力とつながると考える。

また、本校では、「問題発見・解決能力」「共に支え合う力」「社会や未来とつながる力」の3つの柱のうち、「問題発見・解決能力」を具体化したものの中に「試す力」がある。今回の題材では、始めに自分のイメージをもとに材料を選んで版のつくり方を工夫するが、刷ってみると思い通りにはいかないことが予想できた。そこで、何度も繰り返し関わることができるように、他者のアドバイスを聞いたり、それを生かしながら版をつくり変える活動を入れることで、自分のイメージに友達の意見を取り入れたり組み合わせたりして、表したい動物を繰り返しつくっていきけるような活動とした。

2 「主体的・対話的で深い学び」の視点を入れた授業改善における子どもの変容

今回の題材では、「版をつくり変える」というところに重点をおいて学習の計画を立てた。子どもたちは自分の思った通りの動物が写るように版をつくり始めるが、実際に写してみると満足できるものが写るとは限らないと気付いていた。そこで、つくり変えていく活動を入れることで、「自分の思った通りに写るようにしたい」という思いをもって、試行錯誤する姿が見られた。また、つくり変えるだけでなく、刷るときのインクののせ方や力の入れ方を工夫して刷ろうとする児童もいた。何度もつくる・刷る活動を繰り返すことで、もっとイメージするものに近づけるために、主体的な学びとなっていた。

対話的な学びとなるように、材料を写す場面・版を刷る場面・版をつくり変える場面のそれぞれで、お互いに思いついたことを伝えたり、困っていることを共有したりする時間を設けた。「困っていること」を伝える場面では、うまく版が写らなかった友達の悩みを聞き、友達の表したいものを尊重しつつ、どんな材料を貼ると写りやすいかを伝えたり、友達からもらったアドバイスを生かして、版を作り変えたりする児童が見られた。それ以外の場面でも、自然と子どもたち同士で材料について話している姿も見られたので、

深い学びとなるように、表現と鑑賞の活動が相互に関連し合うような指導の計画を立てた。子どもたちは、材料の試し刷りの段階では、写った形そのものを楽しむ姿は見られたが、「造形的な見方・考え方」を働かせて活動している様子ではなかった。そこで、写したのからどんな動物が表せるかを考えたり、版をつくる過程で、自分が表したい動物に合う材料を考えさせたりした。つくりつつあるものから、自分なりの価値を見出して、つくり、つくり変えるという変容が見られた。